ecf
ecology clean fiber

2017
Omikenshi Environmental Report

環境報告書

オーミケンシ株式会社

第3回先端繊維素材シンポジウム
2016年6月2日
於： 東京　日経ホール

Premium Textille Japan
2016年5月24日～25日
於： 東京国際フォーラム

― もくじ ―

ごあいさつ	1
環境経営	
環境理念 ／ 基本方針	2
行動指針 ／ 環境マネジメント	3
中期プログラムとその推進	4
環境対応製品開発と活動経過	4～5
環境保全活動	
環境負荷	6
エネルギー使用量 ＜電 気＞	7
エネルギー使用量 ＜燃 料＞	8
エネルギー使用量 ＜ 水 ＞	9
グリーン調達 ／ 教育活動･資格取得	10
地球温暖化対策	
GHG排出量 ／ 工場安全大会	11
ゼロエミッション ／ 太陽光発電	12
PRTR／ 大気･水質／ PCB関連	13
エコ･プロダクツの推進	
レーヨン開発商品	14
非繊維事業展開	15
リサイクル･バイオマス商材	16
会社概要	17

第14回 JAPAN YARN FAIR
2017年2月22日～24日
於： 一宮市総合体育館

2016年8月31日～9月1日
於： 東京国際フォーラム
Living Wonderland 2016

【報告対象期間】
原則として、2016年4月1日から2017年3月31日までの活動を報告していますが、それ以前や直近の活動報告も含んでいます。

ご あ い さ つ

地球温暖化対策の国際的機関である「国連気候変動枠組み条約締約国会議」も回を重ね第22回を迎え(COP22)、昨年11月にモロッコ・マラケシュで開催されました。マラケシュ会議に先立ち、2015年12月のCOP21パリ会議で採択された「パリ協定」が発効しました。これは、世界の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す国際条約であり、今後は各国の目標やルールブックを作成し、2018年までに合意する事が課題となっています。しかし、2017年6月にアメリカがパリ協定離脱を表明し、暗雲が立ち込めましたが、実際に離脱が確定するにはまだ時間を要し、状況は定かではありません。マラケシュ会議中の11月8日にパリ協定に締結した日本としても、その出遅れを取り戻し、国際的役割を果たしていく必要があります。

こうした世界的取組みが進められている情勢の中、当社は、地球環境にやさしい100%植物由来のレーヨン事業を中心とした素材メーカーとして、「人と地球と暮らしへのやさしさを追求」と「収益性と企業価値の向上」を経営目標に掲げて参りました。機能レーヨンの国内外における販売強化に取り組むとともに、レーヨン事業以外につきましても、他社とのコラボレーションを積極的に進めて事業展開を図ることにより、事業基盤の強化に努めて参ります。

レーヨンの原料であるパルプを分解して抽出し、セルロースを溶解・再生して開発した低カロリーの食品である可食セルロース「ぷるんちゃん（商品名）」は今後、食品メーカー等とのコラボレーションにより食品分野への展開を目指して参ります。また、産学連携や異業種との共同研究の視点から、広島平和記念公園に捧げられる、想いの込められた折り鶴を繊維に再利用した「折り鶴レーヨン」などのように、セルロース再生技術を応用した新素材での用途開発も進めてまいります。

そういった中で本年、お陰様を以て当社は創立100周年を迎えました。
今後も環境を守る企業としての地位を確立しつつ、安定的に収益を計上できる体制作りを目指して、研究開発体制の強化による高付加価値商品の開発、国際販売力の強化など、グローバルな視野と確かな技術力で、人と地球にやさしい環境とゆとりのある生活を演出する企業を目指して参ります。

本報告書では　『2016年度の環境経営活動と取組み状況』をご報告致します。弊社の環境活動への取組み姿勢や次世代環境製品の一端をご理解頂き、今後ともご指導、ご支援を賜れば幸いに存じます。

2017年　9月

COP22 より

オーミケンシ株式会社
代表取締役社長
石原　美秀
ISHIHARA　YOSHIHIDE

【環境経営】

〈環境理念・経営目標〉

人と地球と暮らしへのやさしさを追求

環境配慮型の事業構造を構築し、環境を守る企業としての存在感を創ります

収益性と企業価値の向上

世界において存在感のある素材メーカーとしての地位を確立し、その素材を生かしたテキスタイル・製品展開により心のゆとりと豊かさを提案します

〈環境基本方針〉

技術開発

オーミケンシグループの総力を結集し、人と地球環境にやさしい技術開発に取り組み、環境対策を進めます。

環境保全

製品の設計・製造・販売・回収・廃棄に至るすべてのプロセスにおいて、環境に及ぼす影響を予測し、評価し、低減し環境保全に努めます。

社会貢献

事業活動を通じてのみならず、地域社会の一員としても社会や地域の環境保護活動に積極的に参画します。

〈環境行動指針〉

人と環境に優しい商品の開発・製造と提供に努めます。

省エネルギーの推進で、地球温暖化防止に努めます。

3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進を図ります。

国、自治体等の環境規則を守り、自主管理基準の設定・維持・検証に努めます。

社員一人ひとりの環境意識の高揚と環境教育の推進を図ります。

〈環境マネジメント体制〉

☆この組織は、事故・災害時は勿論、日常の環境保全活動に至るまでの組織体制を示します。

【環境経営】

☆ ☆ ☆ 中期プログラムとその進捗 ☆ ☆ ☆

＜重点課題＞	＜中期計画目標＞	＜継続的取り組み状況＞
1. 環境マネジメント システム構築 （EMS）	*統合的な管理・監査体制の構築 ・環境監査の実施 ・リスクマネジメントシステム導入 ・従業員教育の充実	・環境経営対策室設置(2002/9～) ・環境経営度調査実施(2003～) ・環境対策グループ創設(2005/7～) ・新入社員教育実施　（環境報告書　他にて）
2. エネルギー対策	・エネルギー原単位の向上 ・CO_2 削減目標の達成(総量) ・ボイラー設備及び燃料の見直し	・省エネルギーの見直し （電気・油・蒸気など目標管理の導入） ・ボイラー設備更新と燃料見直し(RPFの混合使用)
3. 産業廃棄物低減	*産業廃棄物処理費の低減 （ゼロエミッションの実現） *排出依頼業者の現地調査強化	・発生源見直し(Reduce)　／　排出物の再利用(Reuse) ・廃棄物の有価販売促進(Recycle) ・廃棄物の一時保管場整備(加古川) ・廃棄物処理業者の実態把握と依頼先実態調査(毎年)
4. 化学物質管理強化	*PRTR法遵守 ・対象物質の削減 ・化学物質管理データベース構築	・正確な実態把握と推移追跡 ・PCBの安全管理と最終処分対策 ・基準値管理と目標管理の確立
5. グリーン購入・調達	*グリーン購入・調達の実施	・購入品の選定と購入先の研究　／　適合製品の企画販売
6. エコビジネス推進	*エコビジネスの拡大 ・新規商品の開発・販売拡大	・環境関連商品の立ち上げ(Recycle) ・エコビジネス推進
7. 環境情報開示	*「環境報告書」の継続的発行 *教育・啓蒙活動の実施	・環境報告書の作成　(2003年より毎年発行へ)

▼ ▼ ▼ 環境対応製品開発と活動経過 ▼ ▼ ▼

オーミケンシグループの”環境配慮設計”に基づく商品開発と、環境保全活動の経過は以下の通りです。

年	月	＜オーミケンシ＞ 環境配慮型開発繊維	＜日　本＞ 法令・規制	＜世　界＞ COP　他
1995	9	クラビオン発売		COP1(ベルリン)気候変動枠組条約締約国会議
1997	3 10	①兵庫県エコビジネス振興賞受賞 ②通商産業大臣賞受賞 （リサイクル推進功労者等） クラビオンで表彰	・容器包装リサイクル法施行 （ビン、PETボトル　'97/4～） （プラスチック容器、包装等は　'00/4～）	COP3　地球温暖化防止京都会議(京都議定書) （125カ国が批准/2005年2月16日発効）
1999	7		・化学物質排出管理促進法(PRTR法)公布	COP5(ボン)
2000	4 12	・ISO　9001取得　（大垣EP事業部） 紀州備長炭繊維発売	・ダイオキシン類対策特別措置法施行('00/1) ・循環型社会形成推進基本法公布('00/6)	COP6(ハーグ)
2001			・家電リサイクル法、グリーン購入法施行('01/4) ・PCB特別措置法施行('01/7)	COP7(マラケシュ)
2002	1 9 11 12	パポリス発売 ・＜環境経営対策室設置＞ ・産業廃棄物処分状況調査開始 ・2001年度環境経営度調査開始	・土壌汚染対策法公布(　'02/5) ・建築基準法改正施行('02/12) ：シックハウス対策	COP8(ニューデリー) ・地球環境サミット(ヨハネスブルグ)
2003	1～3 4 9 12	・産廃業者訪問調査 ・2002年度環境経営度調査(以降、実施を定期化) ・「環境報告書」(2003年版)初版発刊	・土壌汚染対策法施行('03/2) ・改正省エネ法施行　('03/4) ・改正リサイクル法施行('03/10) ・東京都環境確保条例('03/10)	COP9(ミラノ)
2004	6 7 9	・2003年度環境経営度調査 97．6°F(華氏976)発売 ・「環境報告書」(2004年版)発行	※PCB廃棄物処理事業スタート(2004/12) （日本環境安全事業㈱が北九州から） ※'05年＝愛知・東京'06年＝大阪・北海道	COP10(アルゼンチン/ブエノスアイレス)
2005	1～ 6 10	・産廃業者訪問調査 ・2004年度環境経営度調査 ・「環境報告書」(2005年版)発行	・自動車リサイクル法施行('05/1) ※愛地球博('05/3～9) ・地球温暖化防止国民運動('05/6～)	・京都議定書発効(2005/ 2) COP11(カナダ/モントリオール)
2006	5 6 10 11	HOPE－FR / NEXT－FR発売 ・2005年度環境経営度調査 ・「環境報告書」(2006年版)発行 リフレール発売	・アスベスト新法施行 ・改正省エネ法施行('06/4)	・(EU)　RoHS　指令スタート (特定有害6物質使用制限) COP12(ケニア/ナイロビ)
2007	4 6 10	水解レーヨン発売 ・2006年度環境経営度調査 ・「環境報告書」(2007年版)発行	・PRTR法：対象物質見直し	(EU)　REACH規制　発効 ・中国版　RoHS指令スタート COP13(インドネシア/バリ島)
2008	3 4	・【ECO-TEXSTYLE展開催】(大阪・東京) ケナフレーヨン発表 プラチナレーヨン発売	・工場立地法改正：工場立地敷地面積見直し ・化学物質排出管理促進法(PRTR法)改正 ・省エネ法・地球温暖化対策推進法　改正	・京都議定書第1約束期間開始('08～'12) ・洞爺湖サミット ・北京オリンピック

年	月	＜オーミケンシ＞ 環境配慮型機能繊維	＜日　本＞ 法令・規制	＜世　界＞ COP　他
2008	6	・「サミット記念環境総合展」に出展 ・2007年度環境経営度調査	・生物多様性基本法施行＜6月＞	COP14（ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ/ポズナン）
	10	・「台北テキスタイルフェア(TITAS)」及び 「インターテキスタイル上海」に出展 ・「環境報告書」(2008年版)発行		・(EU)REACH規制～運用開始
	12	※クラビオン⇒日本アトピー協会推薦商品の認証取得 ※パポリス・97．6°F・リフレール(3種)　⇒　エコテックス・スタンダード100の認証取得		
2009	6	ソーラタッチ発売 ・2008年度環境経営度調査	※生物多様性企業活動ガイドライン ※（内部統制報告書の提出義務化；3月～）	COP15（デンマーク/ｺﾍﾟﾝﾊｰｹﾞﾝ）
	8	※レギュラーレーヨン　⇒バイオマスマーク取得	・温暖化対策推進法改正	・・・ポスト京都(2013年以降)枠組決定
	9	・「上海スピンEXPO」及び 「台北テキスタイルフェア（TITAS)出展」	※2009年度エネルギー使用量から把握 → ’10年度から報告義務（改正省エネ法）	
	10	・「環境報告書」(2009年版)発行		
2010	2	アミセル発売	・改正省エネ法施行<4月>	COP16(メキシコ/カンクン)：
	4	・2009年度環境経営度調査	・・・・・企業単位報告制度開始	気候変動枠組条約会議
	5	・総合展示会「テキスタイルイノベーション2010」 リ・テラ 発表（草本レーヨンなど・・・5種類）	・土壌汚染対策法　改正 ・PRTR対象物質改正（1,2種合計：435→562へ）	・上海万博開催(5～10月)
	9	・「SpinExpo　16th　Shanghai」出展 ・「環境報告書」(2010年版)発行	・東京都環境確保条例施行（C&T式排出量取引） ・廃棄物処理法改正（処理業者の実地確認など）	COP10（名古屋）生物多様性条約締約国会議
	10	「台北テキスタイルフェア（TITAS)出展」		
2011	3	第8回ジャパンヤーンフェア（一宮）　出展	・ 3.11東日本大震災	
	4	・2010年度環境経営度調査		
	9	国際フロンティア産業メッセ2011　出展　（於：神戸） ・「環境報告書」(2011年版)発行	・「東日本大震災により生じた災害廃棄物の処理に関する特別措置法」の制定	
	10	台北テキスタイルフェア（TITAS）にて「サーモベール」発表		COP17　　開催（南アフリカ・ダーバン）
	12	エコプロダクツ2011（東京ビッグサイト）　出展		COP/MOP7　開催（　　〃　　）
2012	2	第9回ジャパン・ヤーン・フェア　（一宮）出展		
	4	2012上海紡織服装展示会　出展		COP18　　開催（カタール・ドーハ）
	6	・2011年度環境経営度調査⇒「環境報告書」発刊	改正水質汚濁防止法　施行	COP/MOP8　開催（　　〃　　）
	7	ビジネスマッチングフォーラム参加		
	10	台北テキスタイルフェア（TITAS）出展	改正環境教育等促進法　施行	
2013	2	第10回ジャパン・ヤーン・フェア　（一宮）出展		
	3	・『オーミケンシ・レーヨンの日』制定<3月4日>	「フロン回収・破壊法」 ⇒「フロン排出抑制法」へ改訂（6月）	
	11	（以降、環境報告書は毎年度定例化）		COP19　　開催（ポーランド・ワルシャワ）
2014	2	第11回ジャパン・ヤーン・フェア　（一宮）出展		
	3	・『オーミケンシ・レーヨンの日』>展示会開催		COP20　　開催（ペルー・リマ）12月
2015	2	第12回ジャパン・ヤーン・フェア　（一宮）出展		
	3	・『オーミケンシ・レーヨンの日』>展示会開催 機能繊維フェア出展 （ノネナール消臭繊維 ‘カキトニン’）	4月 「フロン排出抑制法」施行	
	11	第5回バイオマス製品普及推進功績賞　受賞　⇒（折り鶴レーヨンによるミラノ博イメージアップ貢献）		
	12	エコプロダクツ2015（東京ビッグサイト）　出展　⇒（折り鶴レーヨン製品、ミラノ博ストラップ）		COP21　　開催　（フランス・パリ）
2016	2	第13回ジャパン・ヤーン・フェア　（一宮）出展		
	3	・『オーミケンシ・レーヨンの日』>展示会開催	「グリーン購入法」一部改定	
	5	プレミアムテキスタイルジャパン　（東京）展示参加	環境基本法　一部改定	
	6	第3回先端繊維素材シンポジウム参加（東京）	PCB処理法改訂	
	8	Living　WonderLand　2016　（東京）出展		COP22　開催　（モロッコ・マラケシュ）　11月
2017	2	第14回ジャパン・ヤーン・フェア　（一宮）出展		COP23　予定　（ドイツ・ボン）　11月

【環境保全活動】

＜2016年度　環境負荷＞

オーミケンシにおける　”2016年度の環境負荷”の全体像は以下の通りです。

注：(　)は　前年度実績との差異　(＋：増加、▲：減少)

＜INPUTについて＞

① 電気量は、減産により買電使用量が減少しましたが、デマンド管理の為の自家発電が増加した為、全体としては、昨年同等値となりました。

② 重油関係は、設備改修の為の本ライン一時停止の際、重油ボイラー運転を停止した為、大幅に減少しました。

③ 水資源については、減産の影響と井戸１基の停止があったものの、総量としては昨年並みとなりました。

＜OUTPUTについて＞

① 外部委託処理物は、減産により繊維屑・アルセル屑が減少したものの、品種切替えの増加に伴い、廃プラ・汚泥の発生量が増加しました。

② 大気排出は、ボイラー一時停止によりNoxが、またRPF比率の増加に伴いSoxが、それぞれ減少しました。

2016年度使用量

2016年度の目標と実績について

1）　2016年度電気の総使用量は36，894千kwhで目標比で1.9%の減少でした。

2）　また、前年比では0.17%減で、昨年とほぼ同等となりました。

各事業場別使用結果

①加古川：’16年実績は目標比　1.9%減、
前年比　0.18%減 となりました。

②本社及び東京事務所：’16年実績はほぼ前年同等で
推移しました。

【環境保全活動】

＜エネルギー使用量　～燃　料～＞

＜重　油＞　（空調用とディーゼル発電用）

2016年度の目標と実績について

1）　2016年度の燃料重油総使用量は、加古川工場減産に伴う重油ボイラーの負荷軽減とRPF比率上昇の影響で前年比　82%の大幅減です。

2）　『石炭とRPF量』は,上記の影響により対目標、対前年共に微増となりました。
尚　RPFの混合率は48.6%で、ほぼ最高設定目標値に達しています。

RPF
（Refuse
Paper&plastic　Fuel ）

＜A・C　重 油＞

＜石炭　及び　RPF＞　（汽力発電用）

★　加古川工場：　'１６年度のＡ・Ｃ重油実績は183ＫＬで昨年比81%の大幅減少となりました。

改正　省エネ法　（諸手続き）
（イ）　2015年度実績（2015/4～2016/3）から、企業全体総エネルギーが原油換算1500KL以上として特定事業者登録済み。　**加古川工場分も合わせて実績を近畿経産局へ届出済み。**
（ロ）　エネルギー管理統括者(A)・エネルギー管理企画推進者(B)の届出／**本社管轄の近畿経産局へ届出済み。**

＜エネルギー使用量　～ 水 ～＞

2016年度の目標と実績について

1）　2016年度の水総使用量は５，１９４千トンで、減産の影響と
　　井戸一基を停止したため、目標値より全体投入量が減少しました。
2）　2009年度までは津、大垣、飯田の各休止工場のデータ推移を含んでいます。

◆◆◆　事業場別使用結果　◆◆◆

①　加古川工場　：'16年度は前年実績比　１．２%増。　②　本　社　：　節水運動の推進により概ね減少傾向にあります。

【環境保全活動】

グリーン購入とは…？

購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格のみならず環境へのやさしさを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを事業者から優先して購入する事です。

なお、グリーン調達については,2013年度より
調達率100%となった為、記載を省略しております。

＜環境教育・資格取得状況＞

環境関連資格者について

（2017年7月現在）

種別			人数
エネルギー関連	電気主任技術者	第3種	3
	エネルギー管理士		4
	ボイラータービン主任技術者	第2種	1
	ボイラー取扱作業主任者	特級	2
	ボイラー整備士		3
	ボイラー技士	特級	2
		1級	2
		2級	7
	電気工事士	第1種	2
公害関連	公害防止管理者	水質第1種	4
		水質第4種	1
		大気第1種	3
		大気第3種	1

消防関連	危険物保安監督者		5
	危険物取扱者	甲種	12
		乙種	57
		丙種	2
	消防設備点検資格者	第1種	1
	消防設備士	甲種	3
		乙種	4
	防災管理者		1
	防火管理者		4
安全衛生関連	作業環境測定士		1
	衛生管理者		9
	酸素欠乏危険作業主任者（2種）		6
	特定化学物質等作業主任者		17
	有機溶剤作業主任者		15
	乾燥設備作業主任者		2
その他	特別管理産業廃棄物管理責任者		1
	環境社会検定（ECO検定）		1
		総計	176

※ 今後とも教育の一環として取得指導をしていきます。
※ 新入社員には環境報告書を教材とした研修を実施しています。

【地球温暖化対策】

＜GHG（Green　House　Gas）排出量＞

公表された直近（2015年度）の国内総排出量は、13億2100万トンで前年比▲3%、2005年比▲5.2%となりました。前年比で減少した要因としては、電力消費量の減少や電力の排出原単位の改善に伴う電力由来のCO2排出量が減少した事などが挙げられます。

また、2005年比での減少は、オゾン層破壊物質からの代替に伴い、冷媒分野において、ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）は増加した一方で、産業部門や運輸部門におけるエネルギー起源のCO2排出が減少した事が挙げられます。

＜CO_2総排出量推移＞　　【加古川工場と2事務所の総排出量について】

（上表では電力係数は'15年度の10電力平均係数＝0.378kg-co_2を継続して使用しています。）

1）2016年度全社CO_2総排出量は、減産によるエネルギー使用量減少で52，676トンとなり、前年対比11%減でした。

2）2016度実績値は、1990年比で60%の減少となりました。

【加古川工場 安全大会】　　2017年7月3日

スローガン　組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動
未来へつなげよう安全文化

黒田事業部長あいさつ

安全標語入選の
衛材課　柴田さん

兵庫県危険物安全協会代表理事表彰　和田原動課長

加古川工場では、活発な安全衛生委員会活動を推進し、安全意識の高揚を図り、災害の無い明るい職場づくりを目指しています。

安全衛生委員会
活動を報告する
早崎安全環境推
進室長

2017　加古川工場スローガン
『危険箇所　見る目　気づく目　予知する目
皆で築く安全職場』

【地球温暖化対策】

＜ゼロエミッションに向けて＞

① 産業廃棄物について

加古川工場の委託引取り量は4,341 t/年でした。品種切替え回数増加に伴い、廃プラ、汚泥の発生量が増加した一方、減産によりトウ屑とアルセル屑は減少しました。また、設備改修に伴い、コンクリートやガラス屑の発生量が増加しました。
尚、次年度より協定報告書基準の変更に伴い、「一般廃棄物」を「繊維屑」に標記変更する予定です。

② 産廃処理業者の実態調査
（年１回実施継続）

２０１６年度も不法投棄防止と業者評価を目的とした『産廃処理業者の実態調査』を現地へ出向き実施し、結果問題はありませんでした。また、加古川工場では、”委託業者の近距離化”をテーマとして新規開拓を継続的に進めています。

※今後とも、『最終処理をリサイクル製品化する業者』を選定しながら、ゼロエミッションを目指していきます。

＜メガ・ソーラーシステムの運用＞

当社は加古川工場において、再生可能エネルギーの固定買取制度を活用し、2013年より大規模太陽光発電設備（メガソーラー）を導入致しました。これまでも、様々な環境対策を実施し、レーヨンの製造工程においても環境負荷の低減に努めて参りましたが、今後とも、更なる環境にやさしいモノづくりを目指して参ります。
＜出力1,100kw、年間発電量117万kwh＞

工場屋根を活用した
ソーラーシステム

＜ＰＲＴＲ・ＭＳＤＳ関連＞

☆ PRTR = Pollutant Release and Transfer Register
★ MSDS = Material Safety Data Sheet

1） 第1種指定化学物質の排出量と移動量調査

・2009年10月施行のPRTRに関する法改正に伴って第1種指定化学物質が462物質に、特定第1種化学物質が15物質に(従前は 12物質) また第2種指定化学物質が100物質(従前は81物質)に増えました。

・世界の動向は 2020年までに化学物質が人の健康や環境に与える悪影響を最小限に抑える方向に向かって、EUではREACH(新化学品規制) にて、日本では改正化審査法(化学物質審査規定法)にて推進されています。

＜加古川工場＞

（以下報告は第1種指定化学物質は1t/年以上、特定第1種指定化学物質は0.5t/年以上の法令に基づいています）

第1種指定化学物質届出書より（トン/年）

物質名	号番号	排出先	排出量 14年度	排出量 15年度	移動先	移動量 14年度	移動量 15年度
亜鉛の水溶性化合物	1	公共水域	3.6	5.1	事業所外	0.0	0.0
		事業所内	0.0	0.0			
二硫化炭素	318	大　気	110.0	96.5		0.0	0.0

PRTR指定の354物質取扱総量より(トン／年)

	総取扱量	総排出量	総移動量
2015年実績	1,174	113.6	0.0
2016年目標	1,115	103.4	0.0
2016年実績	1,056	101.6	0.0
2017年目標	1,320	127	0.0

※　事業所外への移動量は2012年度よりゼロとなりました。

2） 大気・水質への影響調査

加古川工場		実績値	判定	管理基準値
NO_X	2014年実績	67.2	＜	170 (t/年)
	2015年実績	62.1		
	2016年目標	65.0		
	2016年実績	60.7		
	2017年目標	63.7		
SO_X	2014年実績	58.7	＜	173 (t/年)
	2015年実績	70.7		
	2016年目標	60.0		
	2016年実績	51.0		
	2017年目標	53.5		
COD	2014年実績	101.2	＜	153 (t/年)
	2015年実績	99.0		
	2016年目標	95.0		
	2016年実績	89.8		
	2017年目標	90.0		

＜ 評　価 ＞

① 大気関係： ボイラー負荷を下げた為、Nox排出量は減少し、Soxについては、脱硫用石灰石の使用減に伴い減少した。

② 水質関係： 減産による配管、タンクのブロー回数の増加により工場排水負荷も増加した。

以上　全指標共に管理基準値を厳守し、問題ありません。

【ＰＣＢ使用機器の委託処理について】
２０２１年までの適正処理受付申請期限を踏まえ、ＪＥＳＣＯ大阪事業所にて依頼予定。
尚、最終処分期限が２００８年から２０２２年に延長されました。

3） PCB(特定有害産業廃棄物)の保有量と管理履歴

（トランスおよびコンデンサー）

（ ）は使用中の台数で、かつ内数です

	総　計
2004年度　(2005/3末)	201(4)
2013年度　(2014/3末	469
2014年度　(2015/3末)	469
2015年度　(2016/3末)	469

① 現有469台内訳…
コンデンサ(高圧45)
(低圧414、トランス10)

② 上表には、小型安定器等微量入りは含んでおりません。

PCB保管庫

【エコ・プロダクツの推進】

＜「RAYON　FEATURES」　～レーヨンの最大限の機能発揮を～ ＞

＜高機能加工＞

インドアフレッシュなら、特殊加工により「部屋干し臭」発生の原因菌であるモラクセラ菌の繁殖を抑え、イヤな臭いの発生を基から絶つことができます。

＜ビューティーアイテム＞

エナリーのスキンケアシリーズは、優しい使用感にとことんこだわった、ベーシックスキンケアシリーズと 植物の力で透明感のある素肌へ導く、ホワイトニングシリーズの２ライン。 全てのアイテムにキトサンを配合し、保湿を重視したシリーズです。

＜　園芸事業　＞

フラワーギフトショップ
気品あふれる花を大切な人への贈り物にどうぞ。

花のうるおいと緑の安らぎで毎日の生活をやさしく包みます
Sweet of flower and peace of green filled yout life with tenderness .

兵庫県・加古川の
総合卸売センター

季節ごとにさまざまな色や形をみせてくれる花々は、毎日の暮らしを華やかに演出してくれます。オーミケンシでは、加古川事業部に園芸卸売センターを有し、切花や鉢物の販売を行っています。

オーミローズショップ
あなたの心をつみたてのバラにかえてお届けします。

＜　食品事業 ＞

【エコ・プロダクツの推進】

思いはひとつ、平和への願い。

折り鶴レーヨン

HIROSHIMA

広島市の平和記念公園に世界中から届けられる千羽鶴は、年間1，000万羽以上、重さ10トンにものぼります。平和への思いが込められた貴重な贈り物である折り鶴を、再生紙、タオル、雑貨などの身近な商品へ生まれ変わらせることで、託された願いを多くの人に届けようという取組みが始まりました。

日本らしさ
日本独自の文化、折り紙が原料

平和
世界中から届けられる千羽鶴の平和への願いを製品へと昇華しました。

社会貢献性

環境
・千羽鶴の再生レーヨン
・埋めると土に還るレーヨン素材

おりづるの扇子 Orizuru ＋播州織

折り鶴を再生した糸で**播州織**の扇子をつくりました。

播州織®
承認番号 170101

「播州織」は、兵庫県北播磨地区で代々生産されたきた綿織物です。
先染めによる平織りが有名で、その高い品質は世界中から評価されています。

千ノ羽根
SEN NO HANE

折り鶴レーヨンの特徴

折り鶴レーヨンは、「折り鶴」の日本らしさと、環境と平和への社会貢献性を兼ね備えた素材です。

＜バイオマス・アイテム＞

緊急災害
備蓄用薪

燻 Kun Shin 薪

「琥珀」は
グリーン購入法
適合商品です。

「商品名：琥珀」

バイオマス燃料の開発に取り組んだ結果、乾燥後に木酢液に含浸させ、燻煙することにより、扱いやすく、火が付きやすく、また、長期保存が可能で高カロリーな燃料の開発に成功しました。

GPN Green Purchasing Network

高機能薪 “燻薪” とは？

生薪の表面を加熱処理し、乾燥と同時に熱分解により吸水性を少なくした薪です。当社はこの薪に木酢液を含浸させて耐腐朽性を強化させています。

オーミケンシ株式会社

＜会社概要＞

設立年月日	大正6年(1917年) 8月13日
資本金	32億500万円 （2017年3月31日現在）
本社	〒541－8541 大阪市中央区瓦町2－5－14 TEL(06)6205－7300 ／ FAX(06)6205－7313 E-mail ： info@omikenshi.co.jp URL ： http://www.omikenshi.co.jp
代表取締役社長	石 原 美 秀 （いしはら よしひで）
従業員数	305人 （2017年3月末グループ全体）
主要事業内容	綿糸・レーヨン綿・レーヨン糸・各種合繊糸・混紡糸の製造・加工・販売 各種ニット、織物並びに不織布の製造・加工及び販売 各種タオル、寝装製品等の製造・加工及び販売 化粧品の製造・加工及び販売 ／ ソフト開発、その他 各種飲食物の製造・加工及び販売

大阪本社

東京事務所

■ 東京 事務所

〒104－0061 東京都中央区銀座3－7－3 （銀座オーミビル）

＜管理部門＞ TEL (03)3567－8551
FAX (03)3567－8574

＜営業部門＞ TEL (03)5550—3711
FAX (03)5550－3899

■ 加古川事業部

＜加古川工場＞ 〒675－0023
兵庫県加古川市尾上町池田850 TEL:(079)422－3891
（レーヨン綿・糸の製造 ）

＜研 究 所＞ 〒675－0025
兵庫県加古川市尾上町養田1554
TEL:(079)423－0067

＜園芸センター＞ 〒675－0025
兵庫県加古川市尾上町養田1543
TEL:(079)427－9666

HOPE 03 04 Rayon EVOLUTION for Best Life
オーミンくん レーヨンちゃん

加古川事業部

上 海

＜海 外＞

■ 近絹(上海)商貿有限公司 （中華人民共和国）

＜ 繊維原料・繊維製品の販売 ＞

＜お問合せ先＞

オーミケンシ株式会社

〒541－8541 大阪市中央区瓦町２－５－１４　本町オーミビル

環境対策グループ

☎ 06-6205-7113

Fax 06-6205-7309